

議会だより こさか



アカシアまつり（6月11・12日開催）国際交流広場等



鹿角支部消防訓練大会（7月3日）
上川原班が秋田県消防操法訓練大会に
出場します。（9連覇達成）

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 6月定例会の概要 | 2 |
| 2. 一般質問 | 3～9 |
| こんなことを聞きました（6議員） | |
| 3. みんなの広場 | 10 |



小坂町かぶさん

6月定例会

令和4年第4回小坂町議会定例会は、6月16日から22日ま

での7日間の会期で開催され、令和4年度補正予算、条例の

一部改正、町道の変更などを審議しました。また、一般質問

では6人の議員が登壇し町側の考えを質しました。

町道見直しで、元山線の一部と寺ノ沢線を廃止 補正予算の可決では

- ・保育士等処遇改善臨時特例事業補助金 159万円
- ・地域応援商品券事業 3898万円
- ・十和田湖和井内エリア整備内部展示等実施設計委託 439万円
- ・小坂図書館エアコン更新工事 494万円 他

6月定例会では、小坂町過疎地域持続的発展のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定の条例議案1件、補正予算1件、町道の変更、類似町村の産業振興に関する事務調査を原案のとおり可決しました。また、請願1件、陳情3件を採択、意見書案4件を可決しました。

保育士の処遇改善のための「保育士等処遇改善臨時特例事業補助金」、物価高騰等対策として「低所得子育て世帯生活支援特別給付金」、物価高騰等対策として1世帯1万5千円の商品券を配布する「地域応援商品券事業」、その他の事業では、十和田湖和井内エリア整備として「内部展示施設の実施設計委託料」や「上小坂地区定住促進住宅外構関連事業」などの、予算措置について審議しました。

一般会計補正予算については、補正予算5911万3千円を追加する予算を可決しました。追加後の令和4年度予算額総額は44億5118万9千円となりました。



小坂図書館（エアコン更新予定）

請願・陳情				その他							報告	補正予算	条例改正	区分					
地方財政の充実・強化に関する意見書提出についての陳情	総務福祉常任委員会付託	国民の祝日「海の日」を7月20日に固定化する意見書の提出を求める陳情	産業教育常任委員会付託	総務福祉常任委員会付託	女性トイレの維持及びその安心安全の確保についての陳情	総務福祉常任委員会付託	「水田活用の直接支払交付金」の見直しについて国に意見書の提出を求める請願	産業教育常任委員会付託	地方財政の充実・強化に関する意見書	教職員定数改善と義務教育費国庫負担割合引き上げを求める意見書	女性トイレの維持及びその安心安全の確保を求める意見書	水田活用の直接支払交付金の見直しについての意見書	類似町村の産業振興に関する事務の調査について	町道の変更について	令和3年度下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書	令和3年度一般会計繰越明許費繰越計算書	一般会計補正予算（第2号）	小坂町過疎地域持続的発展のための固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定について	審議された議案一覧（※議長は採決に加わりません）
11	11	0	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	賛成	採決
0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	反対	状況
採択	採択	不採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	採択	結果	結果

1 9番 小笠原 憲昭 議員

1. 県立小坂高校の校舎利活用について
2. 消防団員の報酬について
3. 人口減少、少子化対策について
4. イベントの開催について



2 8番 鹿兒島 巖 議員

1. 高齢化が進む中で、支援が必要であっても、国の制度で対応出来ない町民への「生活支援特別給付事業」の創設を



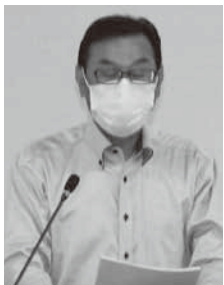
3 5番 菅原 明雅 議員

1. 「鹿角小坂地区統合校」について
2. 「小坂高校の跡地利用」について



4 6番 秋元 英俊 議員

1. 十和田湖地区について（観光・防災等）
2. 消防団員の報酬について



5 3番 本田 佳子 議員

1. ゼロカーボンに伴った二酸化炭素抑制強化について
2. 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について
3. 母子手帳について



6 1番 船水 隆一 議員

1. 十和田湖・和井内道の駅（仮称）について
2. 人口減少対策について



6月定例会
一般質問
町政を問う

6人の議員が
14項目について
質問

出産一時金の増額はできないか

町長

来年度から出生時に10万円、小学校・中学校入学時に各5万円を全員に支給したい



小笠原憲昭 議員

一般質問 町政を問う



▶ 交付税算定を満たす報酬を

小坂高校の校舎利活用策は

問 令和6年4月に鹿角3高校が統合され現在の花輪高校に新しい高校が設立される。

答 今のところ県から利活用について話を受けたことはなく、白紙の状態であります。

問 土地の利用については、小坂インターに近いという好立地条件を生かすことができる企業等に活用していただければ利用価値は高まるものと思えます。検討する必要がある際には、民間活力により跡地利用が進むよう、町としてできることをやっていきたいと思っております。

問 町内外の企業や経済団体に働きかけるとか、または、コンパクトシティーを進める観点で考えられないものか。

答 立地場所も良いところですから、色々と働いて成果をあげられるよう努めたい。

消防団員の報酬について

問 団員の報酬が普通交付税算定単価を満たしていないのはなぜか。国が示している額は「年額報酬」は3万6千500円、町が1万7千200円、「出動報酬」が8千円に対し町が2千500円であり、鹿角市と比較しても「年額報酬」が3千800円、「出動報酬」が3千500円町が低くなっている。いつ改善するのか。

答 町消防団幹部会において話し合いを行っています。鹿角市と小坂町の団員が合同で水防訓練や操法訓練大会を実施しているため、市と同水準を望む意見が多数出されました。これを踏まえ9月定例会で報酬及び手当の引き上げに係る条例改正を提案したいと考えています。

人口減少・少子化対策

問 原因やこの対策については大変に難しいことであるが、一つの考え方として、出産一時金の増額や結婚支援体制としての出会いの場づくりをどのように考えているか。

答 出産一時金について、国保の場合、医療機関が費用を県国保団体連合会に請求し、町の国保会計から連合会に支払う方法で処理されており、平均とされている42万円より県内の場合下回っている状況にあります。国の動向を注視しながら対応していきま

問 晩婚化、出会いの機会が少なくなっていると聞かれています。いかにして出会いの場をつくるか、これが土台であり結婚へ、そして出産子育てとなるものと考えます。子育て支援については大変によくなされているが、その前段の出会いにもっと力を入れるべき。早く手を打たないとじり貧状態になる。限界集落が消滅集落になる。2025年問題、団塊の世代が後期高齢者となり、介護や年金の支えをどうしていくか、真剣に考えていかなければ大変なことになっていく。

答 現在第3子に月5千円を小学校入学前まで支給し、さらに小学校・中学校入学時に5万円支給している。この制度をできれば来年度から出生

時10万円、小・中学校入学時に各5万円を第3子のみではなく全員に支給したいと考えています。

意見 町長の考えに大賛成である。必ず実行されたい。

イベントの開催について

問 ここ2年間はコロナ感染症のためイベントの開催が難しい状況ではあったが、アカシアまつりは6月第2土・日曜日、七夕祭は8月第1土・日曜日となっている。今年のイベント開催を決定したのはいつか。

答 アカシアまつりの実行委員会は4月13日、七夕祭の実行委員会は5月16日、翌日に振興会を開催して内容等決定しています。

問 会議開催が遅い。前年度中に開催時期や内容を協議するべきでないか。

答 ご指摘のとおりと考えますので、来年度に向けては会議開催を早めにしていきます。





「3年ぶりのアカシアまつり」

一般質問 町政を問う



鹿兒島 巖 議員

既存の福祉制度（介護保険など）が使えない高齢者への支援策「生活支援特別給付事業」の創設を

町長 実態把握に努め、早い時期に制度設計したい

問 少子化と高齢化二重の現象が進行する中で、それぞれに支援が必要であっても、国の制度で対応できない町民、特に高齢者への「生活支援特別給付事業」の創設について提案したい。

団塊の世代が65歳以上になったのが2015年、75歳以上になるのが2025年です。さらに40年後まで高齢者の比率が上昇することが予想されている。

このように高齢者が増え続ける状況の中で、介護を必要とする町民とともに、そこまでは至っていないが、その手前で様々な支援・援助があればと願う町民の声を聞きます。

これまでも国の補助制度の対象とならない軽中度難聴者の補聴器購入への補助について取り上げてきたが、こうした課題についてさらに広い視野で、国の制度で対応

できない町民に対して支援・援助を行う「生活支援特別給付事業」の創設を行っていただきたいと考えるがどうか。

答 指摘のように諸法令の対象とならないが、支援を必要とする実態については把握しており、現在、来年度改定する第二期福祉総合計画策定に伴い、そのような高齢者や障害者等の日常生活を支援し、在宅支援サービスの充実を図るため、生活

きない町民に対して支援・援助を行う「生活支援特別給付事業」の創設を行っていただきたいと考えるがどうか。

「生活支援特別給付事業」とは

既存の福祉制度（介護保険制度や障害者支援制度など）での対応が困難で、用具の給付等の必要性がある高齢者などを対象とした日常生活用具を給付する事業

先進自治体の具体例（概要）

支給品目及び給付内容

対象品目購入における用具販売業者の見積額のうち、

『市民税課税世帯は1／2』

『市民税非課税世帯は2／3』を、下記の給付限度額の範囲内で給付。

- ◎ 補聴器購入 片耳50,000円 医師意見書により両耳を認める。
- ◎ 補聴器補修 片耳10,000円（年1回）
- ◎ たん吸引器 30,000円
- ◎ 点滴スタンド 10,000円
- ◎ ネプライザー（吸引器） 20,000円
- ◎ パルスオキシメーター 10,000円
- ◎ 車いす 30,000円
- ◎ IHコンロ 20,000円
- ◎ 医師意見書 3,000円

支援の既存概念の評価・見直しを行っています。

この中で、「高齢者・障害者の共通した町独自の日常生活用具給付事業」の提案も検討課題の一つと捉えております。

今後、ひとり暮らし、高齢者のみ世帯の増加が見込まれますので、日常生活においてどのような種目が必要とされるか実態把握に努め、早い時期に制度設計し、対応していきたいと考えます

鹿角小坂地区統合校の進捗状況は

教育長 今年度中に校名、その後、校歌校章が決定



菅原 明雅 議員

一般質問 町政を問う



鹿角小坂地区統合校（完成予想図）

問 令和6（2024）年4月に花輪、十和田、小坂の3高校が統合し、「鹿角小坂地区統合校」が開校します。
(1) その進捗状況をお伺いしたい。

(2) 小坂町は高校のない町になるわけですが、小坂町の高校生に対する助成等はありますか。

答(1) 今年4月1日付で花輪高校内に「鹿角小坂地区統合校開設準備室」が設置され、令和6年4月に向け準備が進められています。施設の整備については本年度より本格的に始まり、実習棟新築、屋内運動場新築、既存校舎外部内部整備改修などが計画されています。また、今年度中に校名を決定し、その後校歌、校章などが決定されます。
(2) 町内在住の高校生は、すべて町外の高校へ通学することになるので、就学支援として交通費を支援することが有効だと考えています。

要望 花輪・大館への1ヵ月通学定期額はどちらも2万円以上になります。中学生を抱える世帯の町外流出につながらないように、十分な就学支援をお願いしたい。

「小坂高校の跡地利用」をお考えか

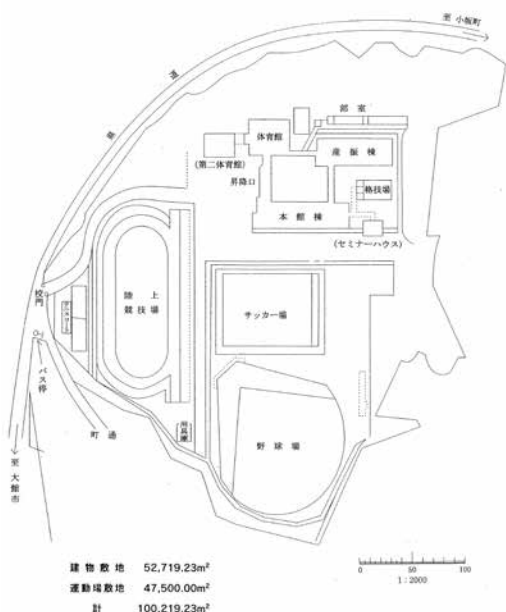
町長 今のところ考えていません

問 小坂高校跡地は、校舎の他にグラウンドや野球場などの敷地も広く、また小坂インターにも近く、有効活用することで、町の活性化につながるように思いますが、町として「小坂高校の跡地利用」をお考えか。

答 県から統合後の利活用についての打診はないので、今のところ跡地利用については何も考えていません。町が直接取得、利用するのではなく、民間の活動に使っていただくのが望ましいと思っています。
意見・要望 考えていないとのことですので、意見要望を列記します。
○一般に、県からの打診はな

いものです。しかし町がビジョンを持って跡地利用を望めば、県は町のために喜んで譲渡してくれると考えます。
○また一般に、統合校の場合、廃校になる学校は解体します。民間でも利用を考えるのであれば申し出なければならぬし、利用しないのであれば解体の費用もかかりますので、解体してもらえばいい。
○町の将来を考えている町民の意見として、素人目ですが、インターが近いので、これからの時代にふさわしい企業誘致はできないか。（IT企業やDOWA関連企業等）
・国や一般社団法人の補助金を利用して、新しい農業の開

拓地として利用できないか。（もみ殻燃料を利用した栽培、儲かる農業作物の栽培等）
・古くなった福祉施設の移転先、福祉と農業を絡めた複合的施設として利用できないか。
・近くのパークゴルフ場と連携して利用できないか、等。
◎右肩上がりの時代であれば無理をしなくてもよいが、右肩下がりの時代では何かの事業に取り組まなければ町は停滞してしまう。町から高校が無くなるというピンチを、高校跡地を有効利用することで町を活性化するというチャンスを変えていただきたい。県に積極的に働きかけ、町が元気づく施策を期待している。



小坂高校校舎配置図

建物敷地 52,719.23㎡
運動場敷地 47,500.00㎡
計 100,219.23㎡

消防団員の報酬について

町長 本年、9月議会定例会において、消防団の報酬及び手当の引き上げに係る条例改正の提案をさせていただきます。



秋元 英俊 議員

一般質問 町政を問う

十和田湖区について(観光・防災等)

問 和井内エリア整備事業の敷地造成について、休屋と大川岱へのT字路100メートル手前付近から、直接道の駅に進入できる動線確保できないか(現在の盛り土状況を見ると、道の駅が隠れて見えない状態であることから、休屋へ素通りするような懸念がある)。

答 本事業を着手するに当たり、魅力的な道の駅になるように、環境省、秋田県及び小坂

町で十分に協議を重ねレイアウトを決定し、環境省及び文化庁への届け出を済ませています。

主な内容は、手前から秋田県が道の駅案内看板を設置し、町が建物や湖が一望できるように周辺の樹木の伐採を行うなど、通行車両の認識度が高くなるように工夫しています。

議員提案の通路を確保するとすると、道の駅との高低差が6メートルほどあり導入動線では道路勾配が確保できないことから、道路確保は難しいものと考えます。

問 現在、盛り土により信号機手前からの景観では、道の駅が見られないことや圧迫感などもあり、緑地の高さを下げ見晴らしの良い方向では考えられないか。

答 今年度は環境省が緑地公園の実施設計を行っており、道路を管理する秋田県、施設を管理することとなる小坂町の3者と協議し、必要な要望

等を取り上げながらまとめ上げることとなります。

今までの打合せでも現在の新しい道路の切土部分について見通しが良くないため改良した方がよいのではないかと、その内容も出ていました。

議会でも同様の指摘をされたことを含めて、今後要望を提出したいと考えています。

問 大川岱地区にある「樹恩の鐘」は休止状態にあるが、復旧しないのか。

答 令和2年4月時点では鐘の鳴り始めに音源障害による漏電が生じて、全て鳴らなくなり、現在休止の状態です。修理について設置業者と協議しましたが、製造にかかわっていないので修理は難しいとのこと、また、鐘を受注した業者との連絡が取れないことから、修理は困難と考えます。

しかしながら、十和田湖西湖畔の活性化や、鐘の鳴る丘整備事業の趣旨から見ても必要なモニメントですので、地元の見解を聞きながら今後の方向性について検討していきます。

問 十和田火山の噴火警戒レベル



休止中の「樹恩の鐘」

ベルの運用について、気象庁は、地元自治体と噴火警戒レベルを活用した火山対策の検討を進めるとしていることから、小坂町としてどのような対策・方向性を持って対処するのか。

答 仙台管区気象台は、令和4年3月24日午後2時から、十和田火山について噴火警戒レベル1「活火山であることに留意」の運用を開始すると発表しました。

町では、本年3月末に完成した新しい防災ハザードマップに、十和田火山に関する噴火警戒レベルの情報を整理掲載しました。

十和田湖区では、4月8日に休平自治会館において、休平地区と大川岱地区の住民を対象とした防火講習会がありましたので、そこで防災ハザードマップの概要説明を行い、両自治会に配布しました。その際、十和田火山の噴火警戒レベルの運用開始が発表されたことや、特に噴火の恐

れがあるのではなく活火山であることの留意をしました。

今後の対応として、気象庁のほか小坂町も構成員とする十和田火山防災協議会では、令和3年度の小規模噴火における具体的な防災対応を決定しましたし、令和4年度は、小規模噴火における火山避難計画を策定する予定です。

消防団員の報酬について

問 総務省消防庁は、令和3年4月13日に消防活動や災害救助に従事した消防団員に支払う手当「出勤報酬」や「年額報酬」の標準額をそれぞれ増額するよう通知したが、小坂町の対応は。

答 昨年、国が開催した「消防団員の処遇に関する検討会」の報告を踏まえ、処遇改善の一環として報酬等の見直しの検討を求める通知があったことや、小坂町消防団幹部会においても、年額報酬等の引き上げを望む意見が多数出されたことから、本年9月議会定例会において、消防団員の報酬及び手当の引き上げに係る条例改正を提案したいと考えています。

温暖化抑制運動の推進を

町長 マイボトル持参運動を推進する



本田 佳子 議員

一般質問 町政を問う

問 町はゼロカーボンに伴い、二酸化炭素の抑制強化するためにどのような取り組みを行っているのか。

答 十和田湖和井内地区に整備中の観光拠点施設には、薪ボイラーによる暖房設備を設置しているほか、建物入り口に地中熱エネルギーを利用した融雪システムを導入しています。また、LED街灯への切り替え、避難施設等にソーラーLED街灯を設置するなどの取り組みを行っています。温暖化を抑制するための

町の考えは。

答 小坂小中学生や、町民対象に、食品ロスについての講話やセミナーを開催するなどして、地球温暖化への意識を高めていきたい。また、持続可能な社会づくりとして、プラスチックごみ削減のため、ボトルを持参する「マイボトル運動」について広報等で周知していきたい。

問 マイボトル運動を進めている市で、市内各所に飲み水をくめるよう整備したところ、市民のマイボトル率が7割近いという自治体があった。小坂町でも、マイボトルに飲料水(冷水)をくめる「給水スポット(ボトルフイラー)」の設置をどうするか。

答 初めて聞くシステムなので、どんな場所に設置したら有効なのか、どのようなタイプのものが適切なのか、予算についても、どの程度必要なのかも含め、実施自治体を参考にしながら検討したい。



ボトルフイラー
(水筒に水が汲めます)

地方創生臨時交付金の活用状況は

町長 多岐に幅広く支援している

問 コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金をどのように活用しているか。

答 この2年で、中小企業支援対策、家計への支援対策、感染症拡大予防対策、小中学校学習環境確保対策、地域経済活性化対策、観光振興対策、地域公共交通支援対策、農業者支援対策などに活用しています。

問 コロナ禍によって経済負担が大きくなった方々への支援等は十分行き届き、生かされているか。

答 家計の支援では、子育て世帯応援給付金、学生生活支援臨時給付金等。農業者支援では、農業経営継続支援、米

価下落対応営農継続支援金等。地域経済活性化対策では、地域応援商品券発行等。観光振興対策では、緊急宿泊支援、十和田湖地区観光事業者等上下水道料金等減免等。雇用対策では、再就職緊急支援奨励金。中小企業支援対策では、資金利子助成、事業継続支援金、経営維持臨時給付金、原油価格高騰に伴う事業継続支援金、タクシー事業者支援など実施した。今年度は、宿泊事業者の支援として、宿泊助成券発行事業を実施しており、更に全世帯に1万5千円相当の地域応援商品券を配布する提案をしています。多岐にわたり町民のみならず、観光業者や飲食店、その他、町内事業者等にも幅広い支援で、他の市町村と比べても見劣りしない支援と思っています。

リトルベビー・ハンドブック導入を

町長 県の動向を注視する

問 「母子手帳」の発育状況を記録する際、低出生体重児(未熟児)は標準枠から外れているために記録できず、自

分の子どもを否定されたような気持ちになる母親が多い。この悩みに配慮し、母子手帳と併用して使用する「リトルベビー・ハンドブック」を導入してはいかがか。

答 厚生労働省で10年に一度の母子手帳の見直しを検討されており、県においても「低出生体重児」に対する冊子について検討していると同ついで、動向を注視しているところだ。

問 母子手帳の予防接種欄を20歳までに増やすことはできないか。

答 その他の接種欄と十分な記入欄を設けており、足りなくなった場合は、新たに貼付けて対応します。インターネット・アプリ「母子モ」が8月から運用開始予定であり、アプリ使用の場合設定を変え、記録可能となります。



〔仮称〕十和田湖和井内道の駅について

町長 感動を与え、十和田湖の魅力満喫できる
事業展開を図りたい



船水 隆一 議員

一般質問 町政を問う

問 和井内道の駅は十和田湖の新しい観光拠点として、来年秋にオープン予定です。駅舎の他、駐車場、園地整備、和井内貞行夫婦の銅像建設計画も進んでいます。期待の大きい道の駅ですが、繁盛する道の駅となるためにはオープン当初の賑わいづくりが大切であり、軌道に乗るまで町が「人」「もの」「金」に責任を持って関与していくことが大事です。そこで「道の駅の運営体制」について伺います。

答 指定管理による運営委託を考えています。施設整備後に条例制定をし、指定管理者を公募します。

問 東北地区の観光バス会社や大手観光エージェンツには綿密な連絡を取り、完成前に現地に招聘して「客を送っていた」など「施設整備のあり方」等を助言・提案をいただく努力が必要と考えますが、現時点で町は誘客に関して動いているのか、観光エージェンツへの働きかけを行っているのか、または動くつもりはあるのかを伺います。

答 道の駅の登録になれば各種宣伝媒体や地図にも掲載され大きな宣伝効果になりますので、ルート案内を分かりやすくして誘客を図っていきたく、立ち寄りが予想されるバス、タクシー等交通機関への積極的な宣伝活動や、地域や各種団体と一体となったイベントを開催して宣伝効果を高めていきたい。

問 短中長期的な経営戦略及び、オープンから短中期ごとにどのよう戦略をもって「道の駅」を経営していくか、としているのか、そしてそれぞれの区切りの中で、どの程度の入館者を想定し、それに伴う年間収支や中長期的な収支をどう想定しているのか。

答 主な利用目的はトイレ利用と予想するが、経営を支える飲食メニューやお土産に、この土地ならではの特色を盛り込み、観光客の購買意欲を高める戦略を描いています。具体的には、駅内部に湖の成り立ち、ヒメマスと和井内貞行氏の功績を称える展示をし、飲食メニューにはヒメマス素材とする食材を提供することで、感動を与え十和田湖の魅力を満喫できる事業展開を図っていきます。

また、海外の方も楽しめる展示内容となっており、今後インバウンド増加を見据え誘客戦略も講じていきます。「想定入館者」は、コロナ禍前の近隣の道の駅の集客状況から十和田湖観光客の約1割の7万人程度を想定しています。

「収支予想」は、指定管理者が決定していないので、営業部門の収支計画は立てられない状況ですが、町としても指定管理者の努力により安定した利益を得る経営をしていただけるようにバックアップしていきます。



〔仮称〕和井内道の駅

人口減少対策について

問 町の人口減少対策をどのように自己評価しているか。

答 総合計画や総合戦略に沿った「小中一貫教育実現」等、各種施策を実行してきたが、減少の歯止めは安易でなく、すぐに効果は出ないので、必要に応じて拡充し継続していきます。

問 結婚適齢期男女の出会い事業と移住促進事業を強化するつもりはないか。

答 「あきた結婚支援セン

ター」登録料の助成、各種男女出会いイベントに参画して結婚活動を支援しています。移住定住施策では、地域おこし協力隊を活用して、移住者が楽しく生活し定住・定着が図られるように努め、相談業務対応を強化し交流人口・関係人口の拡大を図っていきます。また、平成28年度から定住人口の確保と増加を図り町の活性化を促すため、住宅取得補助金を交付している他、今年度は上小坂地区に民間活力を利用した定住化促進住宅を建設し、若い世代を呼び込み活性化と定住促進に努めます。

問 人口減少問題を考える町民組織の設立ができないか。

答 地域課題対応と活力の向上を計るため、地域に支え合いのあり方や課題解決に主体的に取り組む、世代を超えて住民が穏やかにつながる場やコミュニティの維持を促して、川上地区のように地域課題解決の方策を探る中で、人口減少問題も考えていきます。まずは、地域課題を共有できる場をつくるのが望ましいと考えます。



おおもり まさお 大森 昌雄 さん

人口減少・少子高齢化によって、「自治会」の役割が増してきています。自治会特集第2回の今回は、十和田湖地区自治会連協会長の大森昌雄さんからお話を伺いました。大森さんは、過去に大川岱地区自治会長として15年間、また青森県側を含む十和田湖畔連協会長として5年間務められております。今年度13年ぶりの再登板となりました。自治会活動・運営にリーダーとして意欲的に取り組んでおられます。

◆◆◆◆◆過去の自治会活動で印象に残っていることは？

十和田湖の景観が正式に決定され税収が増えたことと、十和田湖ひめまますマラソン・DOWA杯ジュニアクロスカントリースキー十和田湖大会

を開催できたことです。十和田湖畔住民にとって、現在の一番の関心事・期待する事は？

和井内エリアの「道の駅」開設と和井内貞行夫妻の銅像の建立です。ともに十和田湖観光の起爆剤になればと期待しています。加えて生田地区より鉛山までの遊歩道を新設願えればと考えています。議会への要望はありますか？

大いに先進地視察をしていただき、広い視野をもって行政を質していただきたい。日頃の自治会活動とこれからの課題は？

「あなたが主役」と銘打って、会員の得意分野での活動への参加を促しています。また毎月初めの清掃と、春と秋の湖畔清掃を実施しています。学校が無くなり地域は様変わりしました。課題は若手への活動の継承です。

◆◆◆◆◆いつも十和田湖の将来を見据え、前向きに自治会活動に取り組んでおられる大森昌雄さんに改めて敬意を表します。ご自愛いただき、今後のさらなる活躍を祈念しております。

●●●●● 議会を傍聴しませんか？ ●●●●●

次の定例会は9月中旬の開会予定です



熱心に傍聴する町民

- 傍聴の手続きは簡単です。議場の入り口で、名前と連絡先を書き添えます。
 - 団体で来られる場合は、事前にご連絡ください。
 - なお、傍聴する人は次の事項を守らなければなりませんので、ご留意願います。
 - 一、会議場内の言論に対し可否を表明しないこと。
 - 二、いかなる理由があっても議員席に入らないこと。
 - 三、騒いで議事を妨害しないこと。
 - 四、帽子、襟巻または外とうの類を着用しないこと。
 - 五、傘及び棒類を携帯しないこと。
 - 六、その他議場の秩序を乱す行為をしないこと。
- ※6月から9月の開催中は健康管理のため水、お茶等の持ち込みができません。

お問い合わせ先
小坂町議会事務局
電話 0186 - 29 - 3914
FAX 0186 - 29 - 5481

編集後記

地球温暖化による、異常気象のため、今年6月というのに、関東では40度を超す危険な気温が続いております。この夏は、どこまで暑くなるのか体調管理も心配なところと、小坂町は、今のところ、災害もなく、気温も落ち着いております。しかし、度々起こる大きな地震、ロシアのウクライナ侵攻、いまだ収束していない新型コロナウイルス感染症のパンデミック、世界情勢が不安定なため、経済も今後どのような状況になるか解りません。私たちの祖先は第二次世界大戦の壊滅的な状況から、飛躍的に発展してきました。先人の知恵と精神を見直しながら、時には、逆転の発想を生かし、できることからこつこつと、努力し、小坂町の皆様と手を携えながら、明るい未来を目指して、この大変な時代を悠々と乗り越えていきたい。そう願わずにはいられません。

本田 佳子